



—いしの耀き—  
ゴジラの好敵手モスラも描いた  
**村上 裕二 日本画展**

本館6階 美術画廊 [日本画]

1964年東京都生まれ。本展では昨年30周年を迎えたバーニングゴジラ。また、本年は1961年公開の映画『モスラ』から65周年。1996年公開の『モスラ』から始まる平成モスラ3部作の30周年というダブルアニバーサリーイヤーにもあたり、村上裕二氏の描くオリジナル作品に加え《バーニングゴジラ》や《モスラ》の新作を一堂に展覧。現在、日本美術院同人。



「モスラ =平成ゴジラ対戦=」  
©MURAKAMI YUJI / TM & © TOHO CO., LTD.  
F10号  
キャンバス着彩

3.4 WED~3.9 MON

**金重 愨展**

本館6階 美術画廊 [陶芸]

1945年金重素山氏の長男として生まれる。京都大学農学部卒業後、独立。岡山市円山の父素山氏の窯を引き継ぎ作陶。東京・大阪・岡山のほか、ドイツのミュンヘンでも個展開催するなど、国内外にて活動。酒器の名手とも呼ばれている。また、水指やしつくりと手になじむ手取りが特徴の茶碗にも端正な力強さを感じさせる。



(左)「備前茶盃」  
H9.5×W12.5×D10.5cm  
(右)「備前罌口花入」  
H25×W13×D11.5cm

3.11 WED~3.16 MON

**加茂 幸子展**  
～君をのせて獅子になる～

本館6階 美術工芸サロン [立体]

1997年埼玉大学大学院修了。土らしさを残した高温焼き締めで作者の心象世界を表現。動物や人物の組み合わせによりメタモルフォーゼしていく形象は、夢の中のように、どこか懐かしさも感じさせる。今展では女性が乗ることにより獅子のように変化する猫《守護猫》のシリーズを中心に展覧。



「守護猫 一巡る話—」  
H31×W31×D22cm  
陶土、釉薬、金泥

3.11 WED~3.16 MON

**菊地 勝展**

本館6階 美術工芸サロン [陶芸]

1967年宮城県生まれ。1993年東京藝術大学大学院修了。現在は山梨県小淵沢に工房を構え、四季の移ろいを直に感じながら制作。赤土に白い化粧土を施すなど、独自の焼締め陶で、温かみのある作品を発表。幾何学的なテクスチャーや縞文様など、作家の感性や技法、想いが凝縮された表現は、石の壁画や抽象絵画の雰囲気も醸し出し、唯一無二の世界観を築いている。

3.4 WED~3.9 MON



「多面カップ、多面マグカップシリーズ」

**innocent**  
～抽象の彼方～

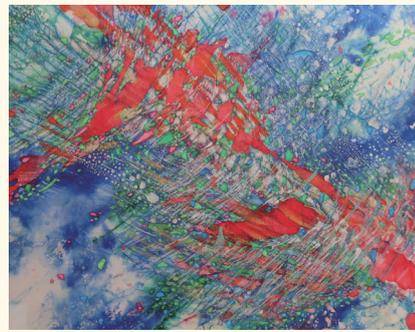
本館6階 美術画廊 [絵画]

創造の原点であり、見る側の内面に呼応し感動を与える心象芸術の抽象作品は、ひと際その独特な個性が輝く。日本画、洋画の抽象系作家による洗練されたクオリティ高い抽象作品を一堂に展覧。

【出品作家】(五十音順・敬称略)

青木 恵美子・太田 冬美・菊地 武彦・キリコカ・武田 州左・千々岩 修・中野 浩樹

3.11 WED~3.16 MON



武田 州左  
「天のみち・1059」  
F30号  
紙本着彩

**salaMandala / CRISIS**  
**井上 裕起展**

本館6階 美術画廊X [現代アート]

1998年多摩美術大学美術学部彫刻科卒業、2000年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。井上裕起氏は2003年に開催した初めての個展から一貫してサラマンダーを主なモチーフとした作品を制作。美術画廊Xにて5回目となる今展では「salaMandala / CRISIS」と題し、新型コロナウイルスによる混乱以降、数えきれないほどの危機が起こって来たなか、作家が一度原点に立ちかえり、過去に造った作品やアイデアを再考しながら、もう一度じっくりと時間をかけて取り組んだと言う作品を一堂に展覧。

3.11 WED~3.30 MON



「salamander [大観明王]」  
H96×W180×D80cm  
FRP、塗料、箔など

# 漆と作家と輪島

## 一つなぐ技と美 第三章

漆の里 輪島の地に育ち、日本を代表する漆芸を学び、活動する19名の作家によるグループ展。

【出品作家】(五十音順・敬称略)

内野 薫・浦出 勝彦・江端 博行・大角 裕二・鬼平 慶司・小森 邦衛・坂下 好晴・坂本 康則・塩多 淳次・鈴谷 昇洋志・田中 義光・寺西 松太・中室 惣一郎・西 勝廣・前 史雄・水尻 清甫・水谷内 修・山岸 一男・米本 有希

3.18 WED ~ 3.23 MON

本館6階 美術画廊 [漆芸]

# 坂口 健 作陶展

1973年長野県生まれ。長野県東御市を拠点とし、主に灯油窯にて制作。織部、灰釉、搔落など様々な技法を駆使し、半磁に模様を彫り込み、灰釉を施した灰刻や搔落作品を発表。彫りの溝に自然の濃淡をみせる景色が特徴的。オブジェ風の陶彫作品にも取り組むなど、独自の世界を築いている。

3.18 WED ~ 3.23 MON

本館6階 美術画廊 [陶芸]



「青手彫刻覆面壺」  
H35.5×Φ30.6cm

# 永井 文子 展

## 光が射したとき

1993年国際基督教大学卒業。長崎県諫早市の「すえ わた野」を拠点として、中里隆氏らとアメリカを中心に世界を旅しながら作陶する作家。

それぞれの土地の土、釉薬、窯に向き合い、その土地の森、海、空、街、そして出会った人たちから刺激を受け、一期一会の精神性を込め、作品を制作。

3.18 WED ~ 3.23 MON

本館6階 美術工芸サロン [陶芸]



「鳩山南蛮徳利」  
H12.7×Φ10cm

# 沢田 光春 展

1947年大阪府生まれ。ブリュッセル王立美術大学卒業。シュルレアリストのポール・デルヴォーに私淑、17世紀フランドル画法を学ぶため1975年に渡欧しデルヴォーに親炙した唯一の日本人画家。

デルヴォーから「空間思考」を学んだ画家は自らも「存在論的錯覚」というテーマをもち、デルヴォー譲りのダイナミックな空間と卓越の技巧で、世の不条理を表現。そのミステリアスで軽妙かつ緊張感ある作品は「東洋のシュルレアリスム」と称され、海外で高い評価を受ける。

今展では、テーマを継承しつつ、具象作品も展観。

3.25 WED ~ 3.30 MON

本館6階 美術画廊 [洋画]



「青き泡」  
H130.3×W130.3cm  
ミクストメディア

本館6階 美術画廊 [陶芸]

# 若杉 聖子 展

1977年富山県に生まれ、2000年に近畿大学文学部芸術学科卒業後、2003年には多治見市意匠研究所を修了し、その後1年間のフランスでの芸術研修を通じて陶芸への学びを深める。

鑄型に流し込む鑄込み技法を用いた白磁は、石膏の原型を丁寧に削り出した繊細な造形を生み出し、また外側を無釉で焼き上げることで、白磁の肌の質感を生かした柔らかな表情と凛とした佇まいが共存している。今展では、植物をモチーフにした花器、オブジェや煎茶器まで、新作を一堂に展開。

3.25 WED ~ 3.30 MON

本館6階 美術工芸サロン [木工]

# 新宮 州三 木漆展

1973年兵庫県神戸生まれ。石川県立輪島漆芸技術研修所で学び、その後、村山明氏に師事。現在は京都府で制作。

鑿や鉋を使い自由な形を削り出す剝物と呼ばれる技法を中心に、轆轤を用いて鉢や椀をつくる挽物といった木地作りに始まり漆などを使った仕上げまで一貫した制作を続けている。木目や木の性質を感じとり、経験と感性で用途と形を見抜くように作る盆や椀などの作品を展観。

3.25 WED ~ 3.30 MON



「削りもの朱茶器」  
H6.8×Φ6.7cm

本館2階 アートアベニュー [ガラス]

# 塚原 梢 展

塚原梢氏は、1986年神奈川県生まれ、2014年金沢卯辰山工芸工房修了。現在は金沢市内にて制作。

ガラスに有線七宝を施す、ガラス胎七宝という技法を用い、植物をモチーフとした作品が好評を博す。日本橋高島屋で初個展となる今回は、春のあたたかいひかりのような作品群を発表。

3.11 WED ~ 5.4 MON



「piece of nature」  
H9×W10×D2.5cm  
ガラス、銀線

イメージ  
撮影：下山 智章

		3月																															
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
本館6階	美術画廊	永山 裕子 水彩画展 神山 易久展	準備会場	村上 裕二 日本画展										準備会場	金重 愨展 innocent					準備会場	漆と作家と輪島 坂口 健 作陶展					準備会場	沢田 光春 展 若杉 聖子 展					準備会場	
	美術画廊X	浅野井 春奈 展										準備会場	井上 裕起 展										準備会場										
	美術工芸サロン	黒沢 理業展	準備会場	菊地 勝展					準備会場	加茂 幸子 展					準備会場	永井 文子 展					準備会場	新宮 州三 木漆展					準備会場						
2本階館	アートアベニュー	森 聖華 展										準備会場	塚原 梢 展 ※5月4日(月・祝)まで																				準備会場

誠に勝手ながら都合により催内容、会期など一部変更または中止となる場合がございます。営業日・営業時間、催内容、会期の最新の情報は高島屋ホームページをご覧ください。



高島屋各店美術画廊・展覧会のご案内はホームページでもご覧いただけます。

高島屋 美術

検索

